

1. 実況上の着目点

① 500hPa 5700m付近で -12°C 以下の寒気を伴う寒冷渦に対応して、最大風速50kt [SW級]で東海道沖を北東進する発達中の低気圧から、前線が伊豆諸島付近～小笠原近海～日本の南にのびている。低気圧や前線に向かう下層暖湿気や上空寒気の影響で、東日本と東北太平洋側を中心に積乱雲が発達、活発に発雷、激しい雨を解析。

② ①の低気圧や前線の周辺では気圧の傾きが大きくなり、北～西日本では、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしけている所がある。

③ 500hPa 5820m付近の正渦度移流に対応して、前線が華中付近にのびている。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

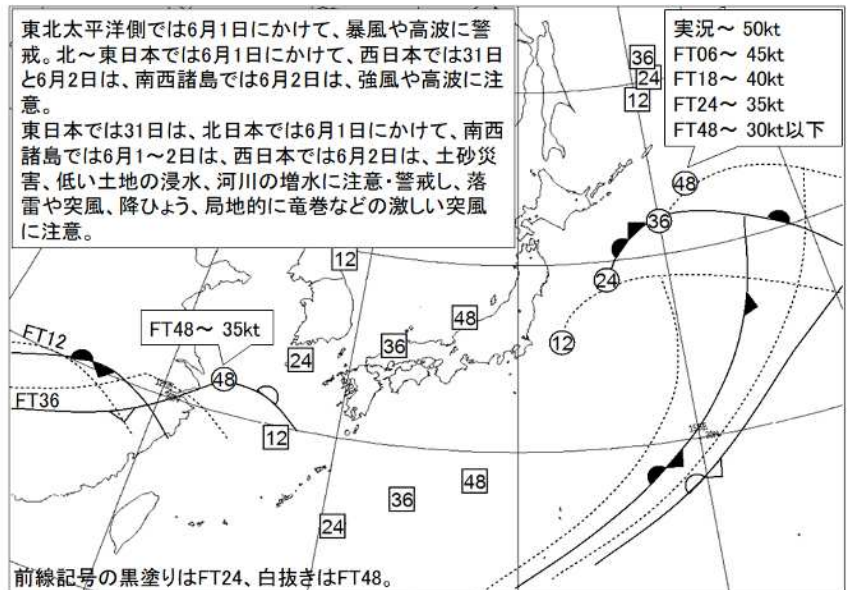
① 1項①の寒冷渦は、31日は三陸沖に、6月1日は千島近海に、2日は千島の東に進む。対応する低気圧は、31日は関東の東に、6月1日は日本の東に、2日は千島の東に進む。低気圧や前線に向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で、東日本では31日は、北日本では6月1日にかけて、大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷、突風、降ひょうに注意。また、前線や低気圧の周辺では気圧の傾きが大きくなり、西日本では31日は、北～東日本では6月1日にかけて、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。特に東北太平洋側では、非常に強い風が吹き、大しけとなる所がある見込み。北～西日本では強風や高波に注意し、東北太平洋側では暴風や高波に警戒。

② 1項③の前線は、6月1日にかけて華中～東シナ海にのびる。6月2日は、500hPa 5760m付近のトラフに対応して朝までに前線上の東シナ海に発生する低気圧が、九州の西に進む。前線や低気圧に向かつて大陸や沖縄の南から流れ込む下層暖湿気 (850hPa $\theta_e \geq 354\text{K}$) の影響で、南西諸島では6月1～2日は、西日本では6月2日は、大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷、突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、前線や低気圧の周辺では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなる所がある。南西諸島と西日本では6月2日は、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①の低気圧及び2項②の前線や低気圧の予想は、初期値変わりやモデル間の予想差が大きい事に留意。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(18時からの24時間)：東北120mm。② 波浪(明日まで)：東北6、北海道・関東5、伊豆諸島4、近畿3m。③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図